



Title	大学院演習：農村市街地の研究
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1955
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77313
Type	manuscript
File Information	K009_0130.pdf



[Instructions for use](#)

67

MOTEBOOK
HIGH CLASS

大学院演習

昭和三十年度

農村市街地の研究



市街地研究予稿

一、市街地^地の発展の予兆 市街地上限と下限

市街地の人口規模

一、市街地に於ける農業的生活と

非農業的生活

一、市街地の先導人口

一、市街地の機能

一、交通の機能と独立の機能

一、交通の機能としての意義

一、各規模の市街地間の規模

一、都市的規模と平行する機能

一、都市に必要と思はれる機能



Bは上流にして下流にして機(関)を以て
 交渉するが、Bの人(民)はBにおいて
 上流のAにおいて交渉するが、Cに
 は行かない。

Bの機(関)はCの機(関)に支那的である
 昔にBの内の人はこれに甘んじて
 する。寧ろBの機(関)はBの人には
 甘んじてす。のが第一義的存在理
 由で、Cの機(関)に因りては余力
 以下の。又余力によつてCを食ふも余下
 の莫及する人には甘んじてす。

機(関)の

市街地の機(関)は上流都市機(関)

市街地の機(関)の因りて下流

市街地の人

市街地の下流に對する(因)は下流

に對する(因)の相異

(上)流に對しては機(関)同志か

下流に對しては人か

上流に對しては機(関)同志及人
 加上流の機(関)へ

下流に對しては機(関)人へ

即ち下流に對しては機(関)同志か

た。下流には機(関)人か、否

。そこを以てする。市街地以上は

(最下層機同の事。夏高がこれの)

市街地の概念

この人々の概念

市街地の規模や機同の表

の如何なるか。その下に古

中民をいふ。市街地の中心

センターとなす。市街地の中心

即ちその中心をいふ。市街地の中心

上級の機同はもとより下級の

機同はもとより。市街地の中心

機同は最下層の機同である。

市街地は最下層の機同である。

これは北海道の通念に於て市街地は

最下層の機同である。市街地は

なく、一般に上級の機同のありとこ

ることをいふ。市街地は

以上

け水の上層下層機同のありとこ

最下層の機同のありとこ

市街地調査項目

一、人口、性別、住居別世帯別

二、職業
一、農林業 (従事者、世帯別)
二、非農林業 (世帯別、人類別)

三、機同の種別
一、行政的、経済統計上の種別
二、経済的、高層、中層
三、整齊的、低層、中層
四、教育的、学校
五、其他、工業、寺院

四、機同の区別範囲
一、管轄区域、高層、中層、低層
二、同種別

五、管轄区域、高層、中層、低層

六、同種別

七、同種別

八、同種別

九、同種別

十、同種別

